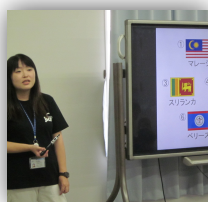


開発教育へ、はじめの一步！

JICA国内拠点では、先生方が開発教育に取り組む第一歩になるような、地域の特色を活かした様々な研修を実施しています。今回は、JICA中国が2011年から実施している「国際教育研修会」について、研修担当者として、この研修に参加している先生に、その特長や活用方法、JICAと連携するポイントについてお話を伺いました。

はじめに、「国際教育研修会」を担当している、JICA中国の新川美佐絵さんに、研修の特徴や地域拠点との連携のポイントを伺いました。



JICA中国
新川美佐絵さん

「国際教育研修会」は、中国5県の教員と教員を目指す学生、市民教育に関心のある方を対象に、参加された先生が**すぐに学校現場で使えるようなテーマ**で、「自分も真似してみたい」と思えるような参加型のワークショップを中心に企画しています。
JICAプログラムとの連携に興味のある先生方、各県に配置された**国際協力推進員**は、皆さんからお声がけ頂く機会を心待ちにしています！地域の強み、リソースを熟知している推進員は、**先生方のニーズに合わせてお手伝い**できるはずですよ。
持続可能な社会を担う子どもたちへの、より良い学びの機会を一緒に作っていただければ嬉しいです。

JICA中国「国際教育研修会」に参加された、広島県・盈進(えいしん)中学高等学校の上田智子先生に、開発教育に取り組むきっかけや、研修後の活用についてお話を伺いました。

● 開発教育に取り組むきっかけ

元々、国際協力には漠然とした興味がありましたが、理数科が専門なので、国際協力の専門知識のない自分には、国際協力や開発教育に関わるのは難しいものだと思っていました。そんな時、以前勤めていた学校の先生から、教師海外研修を教えてもらったことがきっかけで、2016年にラオスに行きました。ラオスで不発弾処理現場を見学したことが転機となり、理系の人の力や理数科からのアプローチも必要なのだと思います、**それぞれが得意な分野で国際協力や開発教育に関われること**に気が付きました。



盈進中学高等学校 上田智子先生

● 「国際教育研修会」をどのように活かしているか


「国際教育研修会」の内容は講義やワークショップ、開発教育や国際理解教育を行なっている先生による実践発表、フィールドワークなどで、2016年から数回参加しています。(上田先生による実践発表レポートは[こちら](#))
参加者層の幅も広く、他校の先生や同じ地域で暮らす様々な国籍の方、高校生、企業に勤めている方など、**いろんな立場の人と話ができて、それだけでもとても良い刺激**になっています。研修で実施したワークショップを持ち帰り、学習旅行の事前学習などで同様のものを企画したり、自身で考えた不発弾除去のシミュレーションゲームを他の先生にも伝えて、**自分に代わり、実践してもらおう**こともあります。また、研修会に参加するときや、校内での特別授業や講演会の企画をするときには、**一緒にやってくれる先生にも声を掛ける**ようにしています。

● 生徒の活動

盈進中学高等学校には、核廃絶やハンセン病、地域活動などに取り組む「ヒューマンライツ部」という部活動があり、JICA中国が今年度実施した「開発教育教員研修アドバンスコース」では、[地域にあるホロコースト資料館の案内](#)を、このヒューマンライツ部の生徒が行いました。部員の中には「上田先生の授業や出前講座が、世界のことを調べるきっかけになった。」と話す生徒さんもいました。

● メッセージ・上田先生の“はじめの一步”

日頃から「人から人に伝わること」が一番大きいと思っています。私も人に教えてもらわなければ、教師海外研修に参加することもありませんでした。だから、**自分が活動するときには、必ず誰かに声を掛ける**ようにしています。私自身、豊富な知識や実践があるわけではありません。JICA中国の研修に参加する前は、自分が研修に参加していいのかわからない不安でした。でも参加してみると、他の方から学べるのが本当に多くて、その**小さな一歩を踏み出**していただくことで、**大きな学びや発見**につながるのだと思いました。

 上田先生は本年度、過去に教師海外研修に参加した方を対象とした、JICA中国の【**開発教育教員研修 アドバンスコース**】にも参加されました。(レポートは[こちら](#))「この研修は海外研修の代替でしたが、地元のハンセン病施設で“近い過去の身近な差別”を学び、海外に行けなかったからこそ、近くにあるのに今まで素通りしていたようなものに目を向けられました。」と上田先生は仰っていました。地域のものに注目できるのは、地方拠点の研修ならではのですね！

インタビューでも「私は大したことをしていないので」と謙遜される上田先生。特別な先生が特別なことをしているのではなく、それぞれが得意なことや身近なものから第一歩を踏み出し、それが人から人に伝わって、開発教育や国際理解教育が広がっていくのは素敵だな、と思いました。JICAを活用して、あなたも“はじめの一步”を踏み出してみませんか？



各地方拠点の研修・イベントは[こちら](#)をご覧ください



JICA 地球ひろば